



近藤氏藏書

近藤氏藏書			
一	四	歴	和
〇	六	史	書
冊	號	函	門
類			

リ 5
6039
3



U5
6039
3

鉞



好樂者與樂田修理亮及許楮起
 秀吉之至以少安之被勤躬
 秀吉之至以少安之被勤躬
 勢也表化至被初付江州志津之
 感田之七安之秀吉之及許楮
 山路如坐車中入欲逐宿之企之
 秀吉之從渡川大掃至新原表被逐回



[Faint, mostly illegible handwritten text in cursive style]

大國記五

小川南庵 孫

○秀吉と繁田修理亮  孫 小川南庵 孫

秀吉の正十年十月十日位長乙辰初
於此葬礼事東城南此室古辰為部
案了案内務内務系改中務介位忠
君位長乙乃嫡孫有身六小川南庵
小島中將位直心と若君十五案に
菊池代法 不三 汁ひ有 一 是 キ 事 タリ 也
子り之 キ 敬 ト 願 キ 君 ノ 親 カ 之 キ 神 ヲ 親 シ 手 ヲ 得 ル 忠
以 テ 美 ク 事 ト 為 ス 之 ト 示 ス 孝 之 人 ナ 介 ス 之 ト 也 ナ 國 ノ 記 ニ

いふことなり。然るに、昔君と謀事へ取れり
— なまき キリ 後見之をなす所をさそ息を
作りて此信 モリ 宜しくくれば、ゆいり人也。考君
後見と云ひ、誰かの人之所為に及ぶは若君也。
雅々同ハ悪口を祝 ササ びたまひ、能く此息惟
牙能あまし人々と計ひて、あつと与一のり
のそりいす。も カ 志やうと下々 ササ 裁判ハ中
辨 ハ 辨に ハ なる計はてハ、古く、
外和漢 ハ 甚い多し。我身也ハ、柴田方平に八九
自 ハ 自ら ハ 打ちあはれ、

柴田の信長とて、老れどひてハ武勇乃長なり。此
に小園にハ前田ハ生野、作ハ内藤、不破、左、原、亮
次郎など、立盛との勇者多く有し。其上勝家
甥にて、ゆい作久つる云、番元全身久大、柴野、日三
月、生野、同原、云、何事も多し。此原、志、に
て 知 況武備あり。是偏ハ柴田ハ、善ハ カ 肩と、此ハ、相
夫、人、か、た、下、藤、元、より、ま、え、下、之、 ウラモ 哭、あ、く、原、地
位ハ、衆、人、と、知、く、ハ 自、実、有、く、ハ 度、量、大、ナ、リ、
の、ひ、才、智、考、ユタカ 武、勇、に、カ 一、ハ 事、と
せ、も、貴、爵、ヒラウカフ 梅、の、く、用、と、云、九、貴、ツツ 貴、

秀吉は天下此を思ふはわが如く惜乎花簾より
 と常し自己を榮花して天下を家と知く
 本意は是れと云り。又既物喪志を癖と云ふ
 此亦く癖病あるは賢者ふく有けぬ所とて
 是天下此を思ふはわが如く惜乎花簾より
 乃る世は亦也これ作る可人道とて
 妨げんや此の如くは亦也信長公御連枝
 辱く多く大長あまの侍りしは其の如く
 亦る世は亦也此を思ふはわが如く惜乎花簾より
 此の如くは亦也此を思ふはわが如く惜乎花簾より

歎と亡せし一実ハ在秀吉の如く上故將軍御送
 葬莫太く費と云ふは亦也此の如くは亦也
 云は此忠義甚く歎し天忠義と感し此の如く
 眼あつた。秀吉の如くは亦也此の如くは亦也
 う天心は肯んや昔の天理も此の如くは亦也
 思ふ也と此の如くは亦也此の如くは亦也
 金言よるは亦也此の如くは亦也此の如くは亦也
 秀吉は此の如くは亦也此の如くは亦也此の如くは亦也
 と此の如くは亦也此の如くは亦也此の如くは亦也

武威と取清んり印と石と投らんより毛安り
 多しき物成ると言はれり。吾れはひるくしし接り
 ぬるんとんても腹立し。上方乃脱と穿てはあ
 息成つて宮の上は飛立ゆりておたり。袖
 冬之比津川左近将監謀りける勝家公あさ時
 より腹乃あき事大なるあ人も也。中冬
 より中春まで大雪少りして心ハもとむるを
 上方への出勢も如し。此也。三年四月秀吉と
 和勝此調宜うんと思ひ勝家へを誘ひたりし
 云成りけし是則然も義直も同く討不破

夫三金毒之節八并養子信實守との秀吉へ入魂
 多しと赴き侍らるといふこと。勝家討たれ
 お議しけしは何も宜くゆりんと也。天正十年十月
 サ又日中侍着狭中村文信所と三人を以て右
 と自來へと桑桑致しより侍り。信長云あはる
 世はひ今幾時とやしく侍事と戦と挑まんも
 口惜し相睡しあもはぬと先君の忠告を可
 守事存首と記ふ事いぬりゆると有し。何れも左
 もくそる事あてしとて。十月廿八日おたは
 江列を渡りては侍らるるしけしと記しけしは

終りのも吾病の身よまをくらた有與よ助き上
 恙しは事と調えんと悦ひ晦日を候より同船
 出あきり十一月二日正持列室寺に使留田に遊
 監宿西へ為りし人氏羽柴筑前守へ在り越中
 述べん是は系事存也河原中も勝家出高次
 身よ此處をまへし信也公を信くしを以て何を
 心よりいしやらんやとて西日餐膳より由法し
 我内中の使と神しり信人の前秀吉此時存
 分存ひ乃外よりあしくおとすし海に也陸軍その
 志向しあきていを路よりしはうしなりしはも

ひととて一統前もあへり入屋ふまをた此
 小盟乃とくろつしは信をまへくしやそらひ乃此
 誓也も結ゆらんやと有き道は我もわく好吉也
 母羽高島乃妻の射池田勝入をまへり後富野乃不
 跡をわめ宣ねるらんや吾へも此中流し
 是よりつし書とつし上りらんそ自修理亮あへり
 作進作へり者しは信人のちれけよなまあらん
 事なりと思ふ。守え不及右し沙汰海より。そ
 赴揚家へ然し使札へ入る者ありしは路し。信也
 云涉廟所へもあきりあき日しは信也へ

きこと解り。翌日み日大徳と人集備。七君惣
 見院殿乃廟あまのり。為海とあり此やうみ
 はんんとして新なり。官使在るあれり。秀吉受
 給ふ。程と乃幣礼申法さよけ進んこと乃
 く柔ゆる方よあまのりゆるとさし。かかむ此も
 かりく。一と入悦いあがりぬを親いぬる宗重
 温同し。事り晝夜あひそしての遊真。数年此方
 一町は消。海は思いと七ととさる。十月八日叙
 きて大津より船よ来。そのあゆむことよ。延演
 津し。とくに。轉府よ。是て十日。悦んぬるを

小の秀吉ら此也事之。志勝家。あやれ
 志。元之節。北亭方力。取。儀。是を。進。て。謝。志
 初。人。比。七。柴。田。五。八。町。乃。宜。と。に。此。ひ。か。ん。地。と
 笑。と。合。之。筑。あ。中。城。乃。保。り。と。下。り。た。家。よ。と
 快。い。ふ。て。て。こ。人。之。前。公。若。然。一。ゆ。り。に。分。り
 保。日。此。和。睦。有。小。園。に。八。柳。油。取。有。と。う。也。
 又。こ。人。之。使。志。元。去。六。月。正。く。八。孫。家。三。回
 一。さ。き。き。か。の。傍。家。う。り。り。一。不。り
 筑。前。受。撥。次。志。元。志。元。村。集。人。に。向。て。仰。け。る
 ぐ。度。柴。田。乃。方。事。り。と。四。使。と。以。和。睦。之。事。案。一

園干之北城に八考者之妻何不見一了攻
 かしとあるに下。此は何れと云ふ八柴田再之友
 先に對し一收少きより多し。平亦能く之を
 取との攻めんに不為とて。勝家何れと云ふに
 之衆子と記し一立何れと云ふ老白木下守也
 大倉藏人始初と云ふと。呼寄り及至何れ
 此の衆承知所存知交あり。百の前後多し。此
 越何れと云ふに中。越し。此也。東守て一の中と云
 幸し一立何れと云ふに之。一り。内。取。之。深。く
 何れと云ふに。子。七。八。有。利。同。心。下。一。介。ら

浮日ユツヒ運ウツル築ツキあり。下。帷カウ幕マク中。交ヨリ勝マツ二ツ子コ軍イク外ソトにハう
 金カネのカネのカネなり。不ズり。人ヒトをツる。此コノ針ハ樂ガク管キョウ提テイ也。

何れと云ふ十一月廿二り。く。物モノ証シ之ノ者ノ九ノと。呼ヨ東トウ也
 勝家五年交何れと云ふ。此コノのカのカと。十七ナナ衆
 此コノ一ヒト立タチ者ノ被カ下カ。此コノ内ノ予ヨ。此コノ衆ノ之ノ衆ノ子ノあり。八
 係ケイ山ヤマ一ヒトり。と。て。出デ。一ヒト。名ナをツし。條ジョウ也。し。下カ。と。さ
 支シ九クにハ。支シ九クと。也。此コノ之上ノハ。衆ノ子ノ義ギ統トウにハ。及ツ衆ノ故コ也
 此コノ母ノ書ノ子ノ等ノ力ノ之ノ者ノハ。急キウ矣ヤ。次ツてハ。衆ノ之ノ衆ノ子ノ也。

上にと各あり可致控場と事出と出れ
 了別点と掛候と有又次是に斗は父母と
 有一軍八味と一信あり有。不之さ
 紅母と呼救とんとて急さ下候も有之
 勅以介たり。為其不羽立。た是射筒并
 考も長忌中内記仲守隣屋仰看也
 外幾内整候之。大居小居都右之。防
 と川率。一不厭。於風雪。至。一
 大怖と。と津と。它。死。て。園中
 之内。不。味。方。と。八。攻。平。守。腕。申。海。と。依。若

を。六。と。入。魂。而。依。其。故。之。物。と。出。一。幾。程。も。不。く。
 毎。一。國。大。取。味。味。二。方。波。阜。一。城。に。格。兵。大。出。し
 行。也。町。城。打破。了。裸。城。一。成。何。時。一。の。案。據。之
 傳。一。急。之。痛。一。也。信。孝。心。一。剛。に。務。け。ま。せ。ら。し
 園。中。之。城。主。垂。く。心。と。愛。し。款。と。与。と。依。案
 力。を。此。也。八。秀。右。と。和。勝。也。し。り。と。外。家。と
 一。長。秀。方。一。と。怒。の。依。是。也。六。さ。ら。と。り。信。忠。之
 之。形。子。見。不。身。一。痛。一。く。事。好。秀。右。と。与。と
 此。の。款。し。り。と。秀。右。と。与。と。存。何。程。に。も
 若。右。と。取。立。能。し。何。計。ひ。と。成。り。と。度。八

小袖二重は、使ふとお流と度實とこそ、即ち
 芳と如敷入趣いとわんは、はははくは、まじり
 深日武武男と名備り、業とらうの好す下、
 車のことく、かゝる、こ下え大悪なり、能く
 かり侍、貴うれ、い、ま、い、君、何、と、我、に、及、ぶ、と、
 かくも、方、法、術、も、何、も、時、を、遠、と、有、り、な
 利、不、破、老、云、系、老、云、云、と、云、け、り、ハ、依、之、言、云
 書、先、り、講、じ、し、人、不、大、然、よ、と、云、て、内、く、之、
 立、ゆ、く、い、り、と、云、也
 秀、吉、武、武、人、之、方、法、術、下、民、と、情、之、
 心、也

あつ、此、人、の、知、り、い、つ、り、明、く、務、方、法、も、拙、き、也、
 一、の、抽、大、功、と、思、ひ、給、は、侍、ハ、な、り、な、り、
 深、日、大、志、有、人、大、人、小、人、の、心、法、取、り、男、に、
 も、つ、と、心、一、ま、り、也、為、吉、也、と、男、に、
 多、お、お、ら、也、法、人、の、心、秀、吉、の、心、女、に、
 男、に、わ、り、也、法、人、に、因、て、忠、物、と、拙、ん、と、思、
 有、て、毎、日、ら、う、の、事、也、此、の、流、向、
 お、明、く、の、云、け、り、は、平、ら、い、り、と、い、
 や、ら、む、ま、は、中、之、来、陣、也、と、い、
 体、息、の、な、り、か、く、有、て、ハ、男、も、
 女、も、あ、ら、ん、也

心大わび河平法と為す舞と^{カミラエ}保子とせし
 東の明日元旦^多飯後^多は^多播引^多始比^多一^多下^多向^多有^多き^多の
 条^多を^多用^多と^多油^多以^多有^多人^多か^多き^多に^多昔^多觸^多に^多なり^多右
 取^多揚^多げ^多ら^多ハ^多せ^多ゆ^多て^多元^多日^多と^多ハ^多あ^多あ^多せ^多給^多り^多と^多
 不^多り^多に^多是^多ハ^多五^多本^多を^多保^多す^多所^多り^多と^多不^多履^多さ^多つ
 其^多の^多因^多と^多も^多也^多よ^多く^多と^多よ^多と^多の^多り
 熟^多去^多一^多年^多と^多ら^多の^多事^多也^多成^多由^多に^多二^多月^多本^多本^多魚
 此^多深^多雪^多成^多隣^多を^多信^多忠^多甲^多佐^多其^多國^多礼^多入^多武^多田^多勝^多純
 父子^多と^多亡^多せ^多り^多又^多其^多ハ^多將^多軍^多所^多父^多子^多逆^多の^多始^多
 々^多に^多弒^多せ^多れ^多給^多ひ^多は^多ま^多し^多の^多事^多也^多と^多ら^多と^多

々^多り^多つ^多人^多の^多心^多も^多何^多と^多果^多然^多と^多し^多と^多其^多の^多事^多
 々^多海^多拍^多さ^多と^多わ^多あ^多り^多成^多て^多上^多下^多あ^多ら^多す^多と^多ら^多し
 年^多も^多夏^多の^多間^多に^多と^多れ^多く^多し^多西^多十^多年^多元^多旦^多之^多祝^多也^多も
 拍^多と^多に^多改^多む^多所^多り^多し^多中^多日^多其^多の^多心^多地^多と^多ら^多し
 々^多々^多と^多ら^多し^多一^多所^多内^多に^多キ^多後^多と^多ら^多始^多比^多下^多向^多給^多
 々^多々^多と^多ら^多し^多と^多年^多一^多同^多く^多有^多き^多と^多ら^多始^多比^多也^多
 々^多々^多と^多ら^多し^多取^多中^多計^多に^多始^多比^多に^多是^多也^多
 々^多々^多と^多ら^多し^多二^多日^多ハ^多悉^多く^多ゆ^多ら^多し^多有^多き^多一^多と^多精^多者^多成^多
 々^多々^多と^多ら^多し^多銀^多子^多或^多ハ^多本^多と^多お^多流^多給^多と^多ら^多し^多是^多也^多
 一^多年^多中^多々^多方^多法^多も^多忘^多れ^多し^多對^多中^多ん^多に^多是^多ハ^多自^多然^多也^多

にくちりしやせよのりて新しむと我中に乃く
 ありもわすれしものさふおろくおろくして業嵐
 をまじふ目あかり守心年此始なり秀若休息
 一法と書きんじよ方以書一志業二三軍也
 一てこれなせし年此思孫成鳥右刀小袖成采る
 同抄筆記一立見孫八八百中余人に及廻り
 此それくのちめ十人休心御付子今日之内に仕
 包可一者急ちりたり。その後二百の午時に
 明しくハ新鎧新し多ひく休るよりむつら
 大軍に一つま 熟睡をれれにも越るを侍人

突少の思ひ作りく云元そ人のきんもつてく程こ
 我有へたれまぬる年のくくハ孫にハの隙は
 なるやうきさつ。昨々の熟眠を神心い
 らまて痛みにたり。その年後おろくくわが
 いちまの神体息し作りし始に也。氣力外
 付く界元くさつ和るそ是也。たれはハ年
 皇これと流く一と。を始地古汁にり中に仕
 包く一と。作しく。内く。くらとてハ有我。記
 とまうに周て町しらと不誠遠せきあひ行を
 ころく一と。時とらせせ。脚あハ孫。中もた。神

得は死ついなすり四日ありの國を元成城主
 或は諸社を傳言津を来つていふは後書
 いふく朝に八右衛門右衛門親光は六
 家内を望んで而て孫路を換益て下平を
 工事と極意も多かりたり

秀吉至安芸山勒朝礼結事
 安芸に公若君所切雅に付く伯父位権公為諸君代元
 日と朝礼受はせりして懸ひて秀吉も中國之
 政務は古一置正月七日上洛一年次と集

何と遊つれ杉家活花松の家ありとも
 一と嚴重なり。翌朝正法船に乘り安芸に
 是船。翌朝の殿へ新正し御礼を以て
 山より一車拾將軍山在山乃如。若くは礼儀
 甚く不雅とて法人に感謝深く平とて故
 みたり

傍人曰將軍取立は大長多くありとつても
 秀吉は乃やうよ七美く重忠は能動
 ありハ稀なりり。真多き人なりと
 婿と多し車を多りり也。

一人ハ可カ知チ天下テ一人也ト洞ツ一ノありぬ是レ自ラ然レ通ス北ノなり

秀吉郡安土小二月滞リ返ル一始メ柳ノ表ヲとかりくといふ返リ取リ之ノ城ノ一也トお添ヒ又モ以テ

け表シて之ノ書ヲ務メと約シ。正シ月中ノ旬ノ室ヲ人ノ由リ城ノ引キ

○小伊勢表ヲを發シ付ケ柳ノ賴ト合シ戦シ之ノ事ヲ

秀吉マを色シ一始メ雪ノ深ク中ノ小シ先ニ

洲川石近ニお籠リを推シ借リ惣ノ集メ居ル之ノ也ト好シ美シ徳シ小

よ各ノ白シ一。泳ニ玉ヲ中ニ人ノ質ヲ為シをわシく丸シ一ぬ。

三月より八月まで日向ノきとれ義定ノなり。固シ之ノ

正月十日徳玉出陣之廻文ヲ一。本ノ侍ノ十五日

より廿日ノころを近ニし終ニひ日ヲ並シと追ヒ入リ立テ出ル

宿ヲ不レ指シ合シ極メむむ。江ノ列ノ草ヲ津ヲも一して勢ヲ拵ル

一。おひらひら勢ヲ列ヲ表シて乱レ入リ糸ヲ於テ枝ノ地ノ可シ

お初メゆきの由ヲ文ヲなり各ノ目ヲ限リて一いりあきた

運シ来ルハ好シ。秀吉ノ由リ姓ノ馬ヲ回シテ鉄ノ炮ヲ一ノ方ヲみ子ノく是レ

りより正月廿三日江南ノ一。是レ陣ノ一。惣ノ軍ノ勢ヲ七ノ馬ヲ

金ヲ務メと三ノ子ノいにけ給ヒ。土ノ波ヲ多ク口ヲより乱レ入リ

給ヒ。公ノ羽ノ柴ヲ美シ徳シ。尚モ并ニ明ク也ト。伊ノ波ヲ掃キ給ヒ助メ氏

家乃京亮スゲ猶葉ユフ伴トモありとも勢二万ニマンあり也君烟
 越トより押入オシ勢三好ミヨシ孫ムネ七ナナあり中村孫平ナカノムネヒラ以尾
 茂助モトノタケ之勢二万余ニマンヨク也秀吉ヒデヨシ三万余サンマンヨク勢と引奉
 一ヒト不敵ヒトシラカより引て乱入ミダシし終ハシりて勝マカりけり
 能ノくもみくしノトナカナ美平ミヘ猛踏マウタツより良ヨシ下シタりし
 幸マカ澁川シズカハも上勢ウヘノセと之ノの勢もセなる勢もセ折マ玉可タマカ
 お防マカとシてなて乃月ノツキと有アりしを城シロに押入オシり
 踏フミと玉タマに代道ノカミチにシて終ハシりて固カタく支サ度タビお違ヒり
 てりり澁川シズカハも勢セ度タビ之ノ我ガも切キりし人ヒトなれり
 友吉トモヨシありしとせりし程ほどの如ごとくなりし勢セも

ころし幸マカ定サ天アメ乃ノありし事コトなり能ノ面オモとシり
 切キりし事コト接ツギ切キりし代タテ替カりし事コト討ウチりし事コト何ナニ
 松大軍マツノオホイクサ多オホクく味アジ方カタ料リョウと成ナリ謀マカりし事コト
 一ヒトく云イハふ満ミツ座ザの勢セなり今イマもわらんとも示シ
 いも多オホク勢セ三サン子コに成ナリて乱入ミダシし民屋タタ悉シく放火ハヒ
 一ヒト煙ケムリ天アメ敵オホひ日ヒと障サマりし事コト秀吉ヒデヨシの三サン万余マンヨク
 勢セと候ウケし小使コウシへ奉マカりし事コト澁川シズカハも三サン万余マンヨク
 一ヒトは六ムロ七ナナ子コ之ノ勢セなり今イマもわらんとも示シ
 病ヤマト鶴ツル乃ノ翅ハネ翎シれ候ウケり

送茂木と引。月心きりりしと云及至二月廿
 六日し終。と。信柵と引破堀と築山下に焼掃
 ひ目と敷く小仕立と云ふとぬらぬる日以後
 今ハ城中乃旗柵と味方のまぬることじとひ違ふ
 斗もそんくまける。和よハ鉄炮とつるハ立鯨波
 と上攻較とつるハ深透るもあく攻金堀と入埤
 乃矢今とつるハ崩壊も倒さしつるハ入人
 志ころハ願けをぬれ城中一命とすれ防さ致
 小依くつるハ長平似于轍
 之莫吻淤泥之水は首割川方及依治とる方

便て出とと番通一守れハ臨人たりと城と海
 長橋人近にたり。かくて越山と城とハ信雄と一
 道とつ穿成同地處と要害とハ海柵と築重丸
 かく付廻し。多しハ外柵とてハ需翼ととさ油汁
 作り。此れおまに技法付取とてハ勢とおらと法もま
 尚承之國人園中藝者入之業秩之東本村集人云前
 御尤信守柵市介。山屋母作と云ふ也。而ハ在村
 等ハに名口と定流ハ。判法嚴重に調人とも。操目
 之士五人御。置。考名ハ至ハ水紫田。和張と吉江
 名とあるに依て。二月八日ハ別在。後り赴し。也築

四ノ中ノ水底に在ると云々作久百五番九為大将率
 二万余騎天正十一年二月七日未名色に至て本陣
 ともこのの月と取り固之各陣先陣承ては
 前田法圓利長を先陣に先陣八府中に在
 一者より先と近るここのあり有御しと不破
 夫三とり我の年按群下取り此のく血は及
 と先陣之理某にあり即瓜行て先と加守ん
 と云者あり八字世に在くもくあり一矢八倍
 とあり久んお是先陣八五のさうく一と名云理
 里七りの掛曉より言わ本陣にありわ張とづく

勢に不破を三休久百五番九為大将率
 八なり云番大将の跡は打り東野に
 には陣代傳てて北有けりお後と勢一萬の
 在り取に分入て素く敵大一凱歌と響と止
 勢と打御柳濃色に陣取ぬ同下と津山本在
 にはゆへり勢とをさつ去番元傷をけり今
 度し先との孫軍印して作りんとて一番に打
 ておたり此度の井口川を切て殺火せんとの
 義之とられいおある城にたさうの海ありと
 に至て焼くくまの海は二百騎小いさく

好しと後大塚三郎若さへ人の介深介て関
糸に高しとて出校火一掃と云氏奉行に
一なり

秀吉傳列 表之は五夜修村に水の陣之事
七日小因場市法 本不意令致火心
流をううりて秀吉も肉江少沖本勝
との事うているに御目日龜山之城上江
所て并せあふちりか歌村と云に忽て
夜川井口を急しと夜致あつる由少流少く板も

多事うのや中日平く恙陣をかく中
海抄ととありとて己身しくお樹一
紫うかかこ好立朝志棟嶽を急一行判
軍勢と十三夜に徳と云す
一 表 坂又右衛門
二 表 柴田清和守勢
三 表 木村小隼人依塔尾衣助木下将監
四 表 赤尾勝左衛門加友作内海野孫兵衛村柳多
五 表 牛島重高少右衛門兵衛村柳多
由は清村大権合右少村山内精右衛門村三河甚者
六 表 三好徳七郎守中村徳重次

人数七八打弼軍一か人やお前々れし
 可成れ八所へ入りて何れも勢と入置して
 山々嶽嶽出るる登りて十所計引のさ本
 に要害と指し居るは祿山城も孫太史に
 峰之太良と入置し尾崎中川湫兵衛等
 尾七八所も満てり山々太良と入置し
 兵衛守内桑山依り亮田土宗了及中津とて居
 城なり將軍ハ勢次及右左衛門生駒甚分津と
 守兵衛尉赤松林之江のふと入置し兵衛尉
 勢一萬五千あり何れも弱き所一萬

明石

成とのよりうれお中多に宿陣してあり
 乃れお二人にのみ射立置るは射方也長ち
 子にうらまはたりとれ也長八陣源有るは城
 水原月之をいれ越前へ浦に置るに在り
 所へ取次有物とて乃事にく三月初旬歸陣
 に及ぬ筒井順興ももすら歸陣有るに
 と使とて秀吉も至る長濱打納人馬込の陣と
 卯月朔日引來柴田伊勢守病氣逐目守り
 しく引中し上洛したりと和保中書可成し
 吉にや卯月丁酉上京あり

○柴田伊左衛門家山崎將監謀反露見之事
 本山に被害に山崎愛と信者有由推せり
 に云制久木村小集人依と云丸八大人合取言本
 下中先志利山路將監試外掃一利。月心
 表りしに雲に山崎月十と云之相不集人依(柴
 とりさんと云。月心志きりなり。此余木村と
 討く柴田の勢と本山の引入人と此謀謀る。能
 夕飯之救と子刻計に木村の門と扣く志きり
 そと書之志共回々八師本傳に色急用之
 事にく有之先門と信之と云。き集人今之

古告一云大崎之志共中少之有。一云此山
 何れ之也。事そ子依一と云一討也
 此本傳より此山月八此と云。伊左衛門具
 此村揚言言是下く未之原由一と有。六周
 下。大崎立揚言。七由り。八所。六内。不
 く。お骨十人計。お村。た名にほひ。屋裏入
 一。お村。刀。眼。移。大崎に。渡。一。客。一。上
 依。人。と。や。り。立。宰。所。や。幾。々。依。八。山。路。打。監
 心。奪。一。て。依。の。お。山。桑。と。り。と。さ。屋。に。く。所
 色。と。有。討。本。山。城。入。柴。田。の。勢。と。引。入。人。と。れ。り。に

お徳の由云々此の村實たよめんと是に
 了。所く六只と逢寄にせし新果と有。此
 中村子。先蒙氣之由致致をら新近の物也
 仕各以り同敷不跡被新果取らん也と極園せ
 一りしむりといふ山路方へ此に生所も病する
 物約八束備一三吉使らんをき一は是の相此
 り推量有一也。及忠誠意心許しハ審法者
 九推り進と呼に時村務はるを居所りなる。及
 忠誠心らんらん。時刻極のてあ。わらん。忠
 廣之宿所に母や妻子有。一ハ山路の婿と也。

此二つ三十一。船に早く返久。財宝等たのめお
 有り。守時もいやく返久とて出。その方ハ
 審法之同敷三人同色。一雞の赤。神く中
 一羽落はる。將監り陣取ひえく。とこし
 ち。わ。由。時村の宿より。告。せ。け。つ。り。即。こ。と
 隼人佐。よ。ち。れ。い。と。い。道。ら。相。に。い。え。と。と。い。

候毎々。か。あ。た。る。上。五。六。時。つ。り。一。三。れ。い。也
 多。は。く。あ。い。り。らん。書。あ。い。も。熟。睡。志
 一。有。一。派。山。路。何。監。り。母。其。案。り。り。あ。し。樽。養

舟の碇乃つまにあしり一六。十艘之番船一層
 にゆれぬ。是ハいづれありとを舟にこそとて
 くにのりきりかけし。業の如く不意船見しつるよ
 因て追掛ありありと八。山路の母妻子女あり
 皆七人乗船へ取入。こぼりしる。隼人依使と九
 又。何れゆりたり

深日悪逆と云ふ。かゝる志儀ハこぼりしる。舟にゆて
 山路の母妻子女あり。乗りしる。番人乃睡臥し
 一むぼす。こゝに巖なり。點識とて一呼出しぬれ
 山路の母妻子女七人。乗る上をり。謀及子孫あり

本村とて一六。んせ一めあり。乗。志強に掛
 して將監たかんとせよと被使われ八隼人。一。船あり
 人くハ。卯月十六日禁田陣知らし。遂に舟に
 入り。山路の母妻子女あり。こぼりしる。舟に
 と懸波と云ふ。こぼりしる。舟に。舟に。舟に
 も知れし。七人。志強に。舟に。舟に。舟に
 代業人の志強に。舟に。舟に。舟に。舟に
 志強に。舟に。舟に。舟に。舟に。舟に
 末乃めて。舟に。舟に。舟に。舟に。舟に

○職田三七。愛と秀と及。許指事

信孝いづハ思ひ久ク其考考と和睡と契約
と誓とれ。柴田新川と結治合敵と色と意。氏
家内膳正猪兼伊与守り合敵とをく雨あはぬ大
有く由信色有しうハ考考の年と有敵
所より安。信忠と信孝思成思成しうく好敵
物言はし。と云く約誓自業の果つれハ不
思惟事つりし。と濃別と義鳥可新果と。年月
十七日曉しに申渡してきて同日亥刻大極と意
陣。翌日十六日の子に氏家猪兼の勢と信孝
と御分儀忠討考つてたり。十九日にハ至つた事なり

し七の攻下と結成はく作り志は在事守と
雨驟しく降出。と申もなれハ八月八日ハ
其が所へたたりし午刻信久君と意考兄
弟不破考と京考次官。小山五兵衛尉上守殿
く此考害とと申おしとと余裕と入
海流はに申一廻つて来て志津守中川殿其場
尉考害と打圍と。息成しとれと攻め吉。能御到
来せしうハ考考考考と。結つて。相ハは次利事
申し外とも加ゆととぞ。とら立しと二百人
内。是にゆり信成子十人撰判つ。と意考原

至て世人の秘明被抄せ。我れゆききさるるの
 殿に百餘を過切らしし立させ世に世人も後を色
 の比下人かたの個人をの網にさしつと物とそれ
 友色に中しつと米織の賈倍の毎月を
 とけさせつと世人に古能くやゆを早速に
 かきしにゆりいたれと被作付たりと
 たら鉄砲小姓を包て廻取と一物にさし
 大利とゆき事おまらそそりて出と
 一兵衛のまがゆと官よりおよと被取觸る
 端尾衣ゆと使してひきとにゆけらるるなり今

成法より有るとして女八書然にゆきして、吾民家同
 暗心よりゆき名をいしとゆきとゆきとゆきと
 初と志ゆきとゆきとゆきとゆきとゆきと
 了ぬ。今ゆきとゆきとゆきとゆきとゆきと
 不計よりゆきとゆきとゆきとゆきとゆきと
 某一人のゆきとゆきとゆきとゆきとゆきと
 にくゆきとゆきとゆきとゆきとゆきと
 人ゆきとゆきとゆきとゆきとゆきと
 十人ゆきとゆきとゆきとゆきとゆきと
 一上。ゆきとゆきとゆきとゆきとゆきと

○山路將監を沖入款邊宿とて企て事

同十九日之子朝に將監依るる立寄敷元にてあり將
築筑守一昨の濃川と敷向由作。そて是
三七番とて度勝家と救ぐんとて名。秀吉に弟一
色は立止りて。氏家稲葉うまぬ故共一強ま
ゆて信者依て治せんとの事ありとて。然八信
いふさし乃移依救ひ強て。不叶ありて。是
く。いづれいふ事とて。云け。龍岫成。度
事。起。計。好。と。之。も。大。山。を。隔。く。大。敵。を
間にあてて。不。及。了。管。事。を。好。り。何。と。を。救。ひ

手入の好いあり。ハ。水。邊。宿。と。て。之。一。時。山。路。は
や。さ。さ。り。上。万。り。水。國。勢。成。お。り。一。取。書
た。乃。普。信。ハ。何。も。夫。夫。に。た。り。一。陣。ハ。東。諸。に。滿
の。あり。ハ。中。川。濃。共。揚。射。り。有。一。要。害。ハ。多
く。此。所。ハ。一。條。を。隔。く。敵。あ。い。の。き。ら。と。救。と
一。普。信。ハ。下。り。ハ。計。に。あ。り。と。之。一。時。是。張
う。事。ん。さ。り。ハ。お。り。勢。思。ひ。も。一。さ。は。所。に。飛
飛。不。了。に。同。一。討。不。了。に。利。の。う。た。事。ハ。稀。ら
り。に。は。あ。り。濃。川。お。勢。ハ。折。紙。ゆ。り。事。ハ。一
り。を。強。と。あり。く。一。く。事。を。と。め。た。れ。ハ。之

甚いし進みしに打ちしりては。日月の如くは
 取返し難くはしるの勢は勝家へ回すなりやん
 とて甲子刻（時）逃作（時）之陣取之を番之志建見牙同
 新く。古お淡あり運のつこらん（時）勝家
 といふやんと不及思惟（時）のするれと中（時）
 かんと同し強く。西の方二十所の城乃ははくし
 お向より南門射れ子息孫や利長志津守の押へ
 には京表のあ井りさ大丈。城へ大に取れしは勝家お
 けをくるるささく。衆もあく。陣に六（時）
 さは直に進み。必宿陣と相く。しる中に

川取し。しとせ。せりし。子の影に勝たあり。うそそ
 寂期の勝とく。城にたれ。先陣は不破を之始と云
 出射作之。久右衛門大竹ハ。志番九郎合を勢一萬
 余騎（時）結又両城つ。し。山崎とた。り。く。急
 しく。勝家も。し。あ。つ。ね。か。つ。あ。た。中川源兵
 衛尉者。を。る。し。ひ。中。に。入。所。さ。し。て。あ。り。し
 城。木。は。く。取。て。軍。陣。乃。血。祭。に。せ。し。なり。け。り
 子。し。ま。し。一。者。を。逃。歸。く。味。方。此。勢。う。こ。り
 きた。大田。要。八。比。田。仙。毛。出。射。り。る。れ。と。守。女。人。切
 て。い。急。進。し。あ。り。く。一。危。さ。事。に。う。あ。り。く。い。や

と乃志信純書之土中もあらず鉄炮といつ
 戦ふ事な志津守と要害しり中川御兵衛尉
 三山志をそ勢立ち下り下て三尺計をさ
 手と搦て不破老之伴久弓志志射う勢と搦
 に扣く防戦士勢に搦筋もうさ武士うれと
 入も志と込今ううと。街及區うりしり
 及るり云書元中前北之外も搦之地
 巢山の陣屋に焼立す久武四勢跡と焼立
 られ度に速いひやら。あれ要害乃持麻廻
 下小屋と焼立。下小屋かとううう八款跡と焼立

度と失くなれん事疑ある包初りも急
 山より勢と分つたり陣屋とヤミヤに
 三つうりやれハむ可成とそ陣部兵生新に
 八條瑞波川かお原款の下小屋と焼立
 付し。津部と勢と二年にわたるわら
 中川御兵衛尉の書(四)下小屋と焼立
 津部六七百勢と右に陣へ御兵衛尉
 今よりやとゆけり。勢下小屋に
 志くお前人は外月にまうさるる
 八款と焼立時と噴く上り中川

ち平は瑞て行ふに成く汚ら^ず我ひけり下小屋
 と焼立^つられよ度と失ひ也^也散^りて^し討^つけ^り
 追^ひりし^に寔^に蜂^の子^と散^りて^し討^つけ^り
 守^りて^し討^つけ^り下^に知^りけ^り入^り城^に堅^固に可^し
 守^りて^し討^つけ^り勢^の六^百に^て終^に若^く也^也
 ぬ^に固^勢勝^に来^て息^をも^られ^と攻^めり^し久^しに^は
 兵^場射^小性^と廻^立ち^中人^にて^突て^お汚^れ上^に攻^めり^し
 と^くい^しん^ごも^の不^破休^久る^所先^立込^入
 け^りと^中川^大音^彦と^と突^くわ^りて^し追^ひり^し

こと何事^も子^の六^百に^て乃^と相^り能^く新^中と^入り^し攻^め
 け^りと^中川^大音^彦と^と突^くわ^りて^し追^ひり^し
 跡^をも^られ^と攻^めり^し久^しに^は
 兵^場射^小性^と廻^立ち^中人^にて^突て^お汚^れ上^に攻^めり^し
 と^くい^しん^ごも^の不^破休^久る^所先^立込^入
 け^りと^中川^大音^彦と^と突^くわ^りて^し追^ひり^し

下つて世とれは、故いあふ事、浪々形、昨水山
 路、瓜たらるしく、事々、孫日戦ひつれ、大和と坊、
 加た、と下、気ゆら、海、心、氣、心、外、腕モ又+に、をり、勝家、が
 陣、(回)り、し、め、と、直直に、り、む、一、里、に、も、不、是、也、事、
 元、是、に、可、致、を、陣、古、は、進、有、け、し、の、急、引、細、く、
 一、此、と、大、利、に、は、け、く、し、し、は、進、只、行、時、も、く、や、く、引、
 取、る、陣、旅、と、固、く、一、時、と、位、と、り、所、う、く、の、自、由、に、
 下、半、掘、し、海、と、く、一、と、毎、二、三、と、上、と、歴、く、以、つ、て、
 一、諫、一、つ、た、と、事、務、に、來、て、中、と、入、と、勝、家、先、て、
 して、く、ふ、あ、し、お、遠、き、り、と、下、知、瓜、も、用、あ、と、

使、ふ、ふ、六、彦、に、乃、時、さ、う、く、也、辨、と、も、と、さ、り、
 形、り、と、や、う、く、や、せ、一、下、に、日、を、れ、ぬ、
 徑、日、隊、回、備、は、後、任、也、と、一、送、戒、と、内、は、大、利、と、勢、
 い、と、能、事、い、わ、せ、八、款、圖、ハ、自、然、に、亡、所、抑、ら、り、と、
 有、し、と、勝、家、能、な、る、を、り、と、一、取、之、事、元、と、急、
 引、取、り、と、使、ふ、乃、數、彦、と、一、と、不、用、か、と、り、
 け、林、可、見、或、日、也、此、之、事、元、下、知、瓜、も、用、ハ、勝、家、早、
 く、急、と、來、て、之、事、と、引、立、回、是、一、引、取、り、と、
 案、上、宜、一、り、ん、の、考、者、う、く、ハ、此、の、所、也、乃、一、
 と、心、有、人、ハ、悔、に、な、り、

成金をかくしりし神不足なる事なき
と能考人といふ人傲り諸人皆なきの
みに思ふにといふ人も亦備くの心らるる事
唯其手北地不知地之と云む一書

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

大同祀考、廿六日録

- 一西野越前守長秀志津山守之城之龍入事
- 一柴田政村其毛受務助忠死之事
- 一秀吉之山左表被寄陣之事
- 一柴田切腹之事
- 一上村六右衛門正忠早死事
- 一柴田信之伴久乃之毒来けし捕り
- 一上之度於柳胤有戦功者被賞事

[Faint, mostly illegible handwritten text in cursive style]

大同紀事六

小北前麓之北輝

丹羽忠良在志村長秀志津嶽之城一筋入事
長秀之北八苦川并江川之内志賀之河
津と城。坂中城長城と一有しにり。小園勢
成押一人為。勢と分。敵表に之子。又塩津海
津に七子城。至。江川と海。先けり。夏に。九月十七
日。秀吉。濃。別。表。出。法。之。由。に。付。く。禁。田。に。到。り。在。
取。出。之。城。之。音。之。入。存。小。姓。之。也。子。餘。人。廻。江。二
之。掌。子。之。連。如。之。六。艘。に。取。築。同。共。之。出。船。有。所。行。
之。成。一。路。之。鉄。炮。の。音。響。く。鳴。出。たり。諸。と。人

此城の北園勢入りしり此色之百廿九と八拾切
せんとして離儀千宗に所。色を以入城うさ
紙の以中にととれまは。改め。も其業心と
散らに悪のまればがう。八思ひらん御座
うん是もや。な所者をつり。あうん其村
尚城若勢。そくと。急陣の急を御。し
水一と云。厚り。な。業心立陣。く。是。一。御
加勢有んと。八。後。に。知。して。正。作。り。を
よ。と。ハ。合。せ。は。分。可。重。粉。背。と。そ。一。時。也。新
し。合。せん。と。八。御。く。口。ひ。し。た。り。の。立。級。を

被戸に因て下しは力い。と。有。り。く。た。業。心。す
下。の。業。心。な。り。の。所。也。其。色。を。を。過。る。を
所へ。あ。ら。な。其。村。を。中。只。と。志。は。分。出。る。を。城
加。勢。を。入。を。所。を。あ。城。を。と。觸。取。を。く。の。城
く。も。力。を。付。り。く。味。方。の。騎。方。騎。を。ふ。ふ。ひ
と。分。御。の。の。す。り。と。ま。り。と。ま。り。の。出。に。り
或。日。信。忠。の。少。を。世。此。時。ハ。築。田。築。田。河。川。あ。相。集。り
る。り。く。軍。勢。あ。後。と。勅。し。り。に。度。も。あ。好。ん。り。字
位。御。り。り。一。勅。さ。り。り
不。破。者。三。作。之。男。久。右。衛。尉。の。陣。取。本。と。と。松。の

うんよと有^レ一うた。敵もこの月をなく引付
 かりし事も。鉄炮をふるふらりあらしに
 急^キらりたり。原とあ井と立代^代く。敵と
 引^引と二二原のたのめ。こりた敵に有^有え
 あ井ハ引^引なく。迎^迎にらるる東一人もあなは目
 をくく^くたり。はたに下知^{下知}し。うけ^{うけ}る事助七に。
 原助兵衛も井もあ七進^進る。皆兵衛もあ七進^進る
 長^長。皆兵衛もあ七進^進る。皆兵衛もあ七進^進る
 一。突^突進^進たれ。敵もはつと引^引はたり。青木は中
 にく^くの卒たたり。はつと引^引はたり。青木は中

よと二二原のたのめ。こりた敵に有^有え
 突^突進^進たれ。敵もはつと引^引はたり。青木は中
 兵衛もあ七進^進る。皆兵衛もあ七進^進る
 に。突^突進^進たれ。敵もはつと引^引はたり。青木は中
 條崎北勢は卒^卒し。志津守^守の敵筋^筋なり。端^端さ
 とお^と日越^越は。南に向^向く。勢をゆる^{ゆる}敵筋^筋さ
 少^少く。兄はま畜^畜元二万子六子^子の勢を
 かり^{かり}たし。志津守^守の少^少なり。少^少く。余
 少^少く。志津守^守の少^少なり。少^少く。余

之在馬乃人我背へしやなりぬく引返さず
 急をこせりし引返すと使ふも度になり
 しく引へる急先と一もたにせしんこり
 秀吉へ取れぬと約定本此申言たれり
 我より出。志津出る城乃南に旗立てさ
 せし時より鉄炮を射り分たに城をりし
 うれなる指へ。只と時引返と入しし。急先
 急をこせりし。使毒母衣し若し引
 付しりし。引の作と云しと。引と引
 附城切しり川上と。うも度しにねし

うたせりし。時のまたに多欠二百人傷りし
 たり。敵ハ此多欠との守人とせしに。勢は引
 引右地は地家と。旗分よりし。急先して小性
 仕度取のりた引付て。多物をせしり
 引射し引下射し多しりし。おれし先し
 兵物なとせしりし。ゆけに。福清市に
 月迄六平。燈檠。眼板。甚肉。物。助。名。傷。射。片
 桐助。作。等。我。れ。と。と。引。付。し。と。云。云。毒
 引のあはれと。呼。先。子。危。く。足。ゆ。り。能
 一。射。し。引。へ。と。之。し。り。引。引。し。初。り。と

して、穀成事なり。と交刺ひ、成物なり。と云
 あり。而して、や、と、河、神、なれ。後、計、者
 兵、備、村、山、路、村、監、宿、屋、七、名、出、村、と、傳、り
 申、今、一、う、解、の、志、先、に、誘、を、打、こ、ひ、と、等
 しく、河、無、物、と、名、察、也。誘、敵、也、致、ひ、ら、
 其、に、討、死、す、と、なり。後、多、く、勅、去、来、村、後、計
 其、に、後、計、日、向、六、城、切、を、誨、し、ん、ま、し。衆
 日、後、計、追、立、の、に、被、取、去、虎、助、日、強、六、十、十、計
 之、推、流、身、と、去、と、し、と、さ、こ、戸、を、あ、せ、と、追
 立、の、に、こ、れ、若、去、来、村、監、も、衆、傳、の、力、介、り

若、人、の、ざ、と、し、や、し、り、と、し、り、と、存、後、多、く、勅、去、来
 後、計、其、に、後、計、日、向、六、城、切、を、誨、し、ん、ま、し。衆
 日、後、計、追、立、の、に、被、取、去、虎、助、日、強、六、十、十、計
 之、推、流、身、と、去、と、し、と、さ、こ、戸、を、あ、せ、と、追
 立、の、に、こ、れ、若、去、来、村、監、も、衆、傳、の、力、介、り
 其、に、後、計、日、向、六、城、切、を、誨、し、ん、ま、し。衆
 日、後、計、追、立、の、に、被、取、去、虎、助、日、強、六、十、十、計
 之、推、流、身、と、去、と、し、と、さ、こ、戸、を、あ、せ、と、追
 立、の、に、こ、れ、若、去、来、村、監、も、衆、傳、の、力、介、り

敵。あつては有るなり。主敵先とて
 軍。あつては有るなり。主敵先とて
 立。あつては有るなり。主敵先とて
 兵。あつては有るなり。主敵先とて
 持。あつては有るなり。主敵先とて
 う。あつては有るなり。主敵先とて
 加。あつては有るなり。主敵先とて
 と。あつては有るなり。主敵先とて
 程。あつては有るなり。主敵先とて
 付。あつては有るなり。主敵先とて

中。あつては有るなり。主敵先とて
 一。あつては有るなり。主敵先とて
 方。あつては有るなり。主敵先とて
 吹。あつては有るなり。主敵先とて
 水。あつては有るなり。主敵先とて
 出。あつては有るなり。主敵先とて
 と。あつては有るなり。主敵先とて

作之乃之志也、勢也、後軍に八威し、
 有、白、國勢、之、内、七、分、法、之、成、と、法、と、合、せ、
 云、一、も、多、う、り、一、と、う、也、此、お、手、の、指、は、後、升、山、
 臨、宿、屋、を、下、り、し、り、こ、人、の、討、死、一、宿、屋、を、通、し、
 玄、番、元、才、う、勢、其、何、計、法、と、法、抄、ひ、也、に、早、
 内、に、小、原、新、七、宿、屋、と、い、は、是、あ、る、亦、亦、亦、亦、亦、亦、
 水、中、の、ゆ、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
 乃、其、何、計、の、内、に、法、も、あ、る、を、さ、ら、り、丹、羽、甚、
 大、臣、の、お、目、も、と、及、一、取、之、法、に、は、ら、ら、り、
 此、法、由、甚、ち、と、法、一、也、

○勝家経心再 毛交務物忠死之事
 柴田小姓了向之勢七、多、條、騎、隊、之、市、り、要、害、
 东、山、以、押、入、勢、陣、を、し、り、
 玄、番、元、才、務、以、柴、田、
 引、取、之、勢、之、勢、引、取、之、は、志、を、法、成、立、
 云、勢、一、も、不、用、び、り、
 者、方、り、と、教、く、に、乃、ち、う、と、取、立、一、て、有、一、
 に、勢、取、中、計、比、し、り、と、字、の、物、さ、し、か、り、
 尤、ま、元、才、元、才、を、あ、へ、り、ぬ、ぞ、し、
 乃、ち、一、と、家、是、其、務、家、陣、に、
 引、取、之、は、自、て、之、北、と、勢、け、れ、
 勢、に、い、り、
 何、
 何、

あり者三百餘人との縁家と小姓の回あり
 ありては原素の吾をり一害害ありの
 是に取入老母妻ありて人の物と功と
 に傍りつりたりてて至誠出づりて
 取らるるを云ふと云ふ時時りて
 死く砂をりたりて。此の兵は柴田の
 に信は亮とて扱へりては酒とて
 けつと制し止しとて又御家討物
 とて下に擧とて身も有る。取
 事一業に縁家無けるに下に隠し

子鬼柴田とては。五百りてありては
 突ておれは二町ありては。此の
 加ふ家ありては。兄の毛交なは
 一。此の由とては。此の
 向いたる敵は。此の
 にあつては。やまひとては。此の
 此の由とては。此の
 けのふりては。此の
 かくは。此の

云一車をくすり仰るるにありしをいふは志をくすり
 張るるとのまゝなる所名也と其に有らんは上
 志母よりめい知事張好と語るるを其母とを
 てりさうし母のくすりも遠らんか多事張試に
 所人やとく兄弟に忠死張極するは其時
 にいふ程に記信吾明にくハ義録に依
 友兄弟分守なり程極し新ひまゝ死事共也
 新多張入るく攻入んと其と一けりは兄弟共
 歴くく者共多く有る突進守り息と
 ころ守りくすひしは成る子成討進張りす

戦野討

くすに成にあり所分見に向く務家進張して一時
 條ありし中をくすりさ張ひらんいさく討
 後合戦して極さくは身と云海に張りた
 備兵十人引つては突てお散るよお戦ひ進
 ちし。その後兄弟張張を切り守るるをハ
 柳舟の流すに沈と云有る言ねれと立上り
 今ありらし剛の志ありと云は市監張張
 ても口言ふに一務家府中へ城にありあり
 父あり戦甲中若若かいつ礼務人此に定つ
 極運の攻め過く也此くは身文に云葉にお

けしやんすい急湯漬成出ふんそん
 に食うらん何れと雨急き法へり
 流もなるとりいんごまねいん
 いすふか又いぬいそん
 他よりあつた必と度と摺約成元
 り進んてとととととととととと
 証曰猪家毛剛かりに依てか成んそ
 之成証疑心もたなく玄宗摺約と
 沖ぬらり又は浦村もととととと
 ぬり時に古く人よりして勝家城

猪家柳流新しり印月廿二のふれ
 柴田孫右衛門村小治名孫守中村
 中村らに忠つ村に亦甚く兵衛村
 たりて後軍玄喬先大村に
 成職度成取某一代乃功名と一
 かふ流成と云り及日成事た
 丸く人教とくくくくくくくく
 為る者たふんも何ん者
 回又とととととととととととと

らんと堅固たりて

五歳より久く六市人匪徒キリシタンこれよりいふ老

有らう痛中キリシタンとわらひもさういふ事

是に因て比不人キリシタンに子キリシタン豆腐キリシタンをいふ

大豆百俵キリシタン平キリシタン約キリシタン一俵キリシタンも

年一人と云ふはけしき切腹也

白敷山口下湯キリシタン取キリシタン書キリシタン又キリシタン上キリシタン坂キリシタン大キリシタン炊キリシタン物キリシタン也

七歳小湯キリシタン彩キリシタンるキリシタン病キリシタンのキリシタン床キリシタン下キリシタンにキリシタン在キリシタンるキリシタン肩キリシタン輿キリシタンにキリシタン乗キリシタンりキリシタン

男キリシタン彩キリシタン五キリシタン十八キリシタン果キリシタン因キリシタン病キリシタン氣キリシタン柳キリシタン花キリシタン表キリシタン切キリシタン地キリシタン也キリシタン

只今録キリシタンゆキリシタンにキリシタン金キリシタン忠キリシタン孝キリシタンと書キリシタン付キリシタンすキリシタン

八歳吉田友兵衛射鳥キリシタン獲キリシタン十キリシタン石キリシタン中キリシタンにキリシタン在キリシタンるキリシタン

所り一と云ふれ父の事キリシタンと思キリシタンふキリシタン身キリシタン三キリシタン也キリシタン

陳キリシタンけキリシタン身キリシタン三キリシタン也キリシタン父キリシタンのキリシタン事キリシタンと云キリシタンふキリシタン身キリシタン三キリシタン也キリシタン

加キリシタンらキリシタン所キリシタン事キリシタン所キリシタンりキリシタンと云キリシタンふキリシタン樽キリシタンにキリシタン録キリシタンすキリシタン

籠城キリシタンはキリシタン所キリシタン出キリシタンぬキリシタンるキリシタン所キリシタン祖キリシタン母キリシタン母キリシタンにキリシタン在キリシタン

此キリシタン一キリシタンと云キリシタンふキリシタン父キリシタンはキリシタン子キリシタンのキリシタン事キリシタンと云キリシタンふキリシタン

と云キリシタンふキリシタンくキリシタン一キリシタンと云キリシタンふキリシタンもキリシタンあキリシタンらキリシタンずキリシタン

つらキリシタンぬキリシタン忠キリシタン孝キリシタンはキリシタン法キリシタン女キリシタン作キリシタンるキリシタン若キリシタンしキリシタンと云キリシタンふキリシタン

人キリシタン一キリシタンと云キリシタンふキリシタン又キリシタン六キリシタン銭キリシタン一キリシタンなり

九中島大屋も先浦門射七八葉田孫を巡射する
たり父八曾に籠り師とて進ハ母年兄才九を山守ハ
しめた送つて七後こり父に七若きしう
備身ししてたり此の鞍中へつひく金くしふと
にもし若きとて亦成り果ぬあうあう
うら敷く内わらうと海谷成あうともそ又
昔俗の口説り作し文高徳意志摩与三人と法
師武之と裁り九法菴ハ利家之人變成わたり
おと便成海う守作りしうた又成進射家程
成進ししと作りと思はれぬわら成也危外工

わらうれと便もいしうら成りうら六海下り
心まうと有し心も成下人成しわ進ハ成此
忠よとて法人の音流よかろり果しうら中村
うら進射ハ送作りしうは長しう馬し二之と
嗜し者う進しうととらうらあ十騎付作りうら
北海にうらうら成り成り成り成り成り成り
躬に成りしう成り成り成り成り成り成り
深日成り成り成り成り成り成り成り成り
版し右しと成り成り成り成り成り成り成り
部た成り成り成り成り成り成り成り成り

実と一に傷く。去年此ま倭中に至るに勢有
くも一。下片時も休息のりもぬ。極奥と云
事とも一に足ん。何れも労は盡ししに
しり。不利大利不ならん。至はる多かり
しなり。此一考と能思ふ。公等御簾中へ遊遊と
了。討は秀吉の御智と討せし。亡君御葬礼と
も執りひし。信忠と一真忠あり。公御連子母
世に親に多しと云。何れも秀吉の忠に似
ゆも有や。し。是はい。そ。救ひ給はし。ん。也
能思ふ。一。大事は乃く。夫の如き。は。れ。公

勝家切腹之事

つ。ね。ゆ。を。り。人。力。の。を。以。て。行。く。所。は
廿三の午。おん。攻。撃。す。以。止。呼。び。て。日。出。日
二十二の夜。山中に。所。を。是。様。に。考。え。し。ま。す。
允。生。捕。り。し。て。東。山。河。れ。痛。し。と。い。は。れ。し。
有。由。呼。び。ぬ。是。より。城。中。に。さ。り。り。と。言。ふ。也。
是。の。後。は。傳。取。し。し。と。言。ふ。計。に。く。さ。る。
く。決。死。も。う。し。と。言。ふ。に。入。り。し。と。言。ふ。也。
上。にも。下。り。も。言。ふ。ま。に。外。擲。し。と。言。ふ。也。
案。初。り。し。り。勝。家。を。盡。に。し。し。て。一。族。を。殺。之。

のち乃^ハこ^ノし^ノくも^ハ事^ハつ^ラえ^ル事^ナ
 と^ハん^ハ御^ノ女^ノを^ハれ^ハ西^ノ作^ナけ^ルも^ハう^ラま^ル
 ら^ハと^ハん^ハ御^ノ女^ノを^ハれ^ハに^ハ神^ノを^ハを^ハ遷^スれ^ル事^ナ
 御^ノ方^ノを^ハり^ハと^ハし^ハれ^ハ女^ノ房^ノと^ハし^ハる^事念^ノ福^ノ祿^ノ名^ノを^ハ登^ス
 あ^ハれ^ハと^ハこ^ノし^ノくも^ハ若^ク狭^キ也^ハ支^ノ前^ノ之^ハ氣^ノを^ハ主^ト下^ニ
 に^ハこ^ノ草^ノ以^テ積^ムと^ハさ^ハあ^ハり^ハて^ハの^ハ月^ノと^ハ跡^ヲる^事
 も^ハう^ラま^ル事^ナと^ハし^ハる^事と^ハし^ハる^事と^ハし^ハる^事と^ハし^ハる^事
 中^ノ遊^ス出^ル事^ナに^ハ及^ブ事^ナ。新^ノ人^ノ原^ノ以^テハ^ハ判^ス。所^ノハ^ハ情^ノ家^ノ
 の^ハち^ハく^ハ一^ノ海^ノ一^ノ作^ナ。ふ^ハ草^ノに^ハ上^リ下^ハハ^ハあ^ハり^ハは^ハり^ハ
 月^ノ以^テハ^ハ判^ス。所^ノハ^ハ情^ノ家^ノと^ハし^ハる^事と^ハし^ハる^事と^ハし^ハる^事と^ハし^ハる^事

より寂^シ約^シハ^ハよ^クあり^ハる^事。男^ノ女^ノ二^ニ三^ニ十^ニ余^ノ人^ノあり^ハ
 燈^ノと^ハ立^テ上^リり^ハぬ^事。情^ノ家^ノを^ハ氣^ノ象^ノつ^テ子^ノに^ハも^ハ毒^ヲ下^ス
 情^ノを^ハし^ハく^ハに^ハ感^スと^ハす^事。卯^ノ月^ノ廿^ニ日^ノ申^ノの^ハ刻^ノに^ハ
 そ^ノ後^ノり^ハに^ハ守^ル事^ナ。

○ 上村に在る北村裁判之事

上^ノ村^ノ北^ノ村^ノに^ハ北^ノ村^ノ裁判^ノ事^ナ
 情^ノ家^ノ曰^クね^ハも^ハね^ハく^ハ忍^ビこ^ノたり^ハと^ハす^事。女^ノ未^ニ毒^ヲ紅^ク雁^ト
 娘^ノ同^ノ身^ノ也^ハ。此^ノの^ハ事^ノ下^ニ庭^ノ中^ノに^ハ計^スい^ハと^ハ有^ル
 一^ノく^ハも^ハ成^ル事^ナ。

つは乃御門よりたつて女^{ロー}とて三^三までを
 去る由も是^也也^也とて人々^ととて^とたに^にけ^け
 作^作思^思多^多く^く心^心神^神と有^有一^一に^に徹^徹て^てさ^さら^ら
 とたに^にお^おて^て末^末毒^毒の^の人^人と^と来^来い^い所^所を^を強^強へ^へ一^一
 つた^つら^らひ^ひく^く浮^浮世^世此^此河^河の^のま^まさ^さに^に伏^伏せ^せば^ば此^此思^思ん^んと
 と^と凍^凍り^り。あ^あや^やけ^けを^を心^心の^の物^物に^に一^一人^人乃^乃今^今を^を
 の^のせ^せ万^万の^のも^も推^推指^指乃^乃た^たと^と一^一と^とん^んが^がけ^けの^の行^行
 田^田と^と之^之軍^軍に^に至^至て^て思^思ふ^ふや^やく^くよ^よく^くよ^よに^に入^入る^るも^も私^私
 之^之後^後も^も悔^悔ま^まら^らず^ず。是^是に^に一^一の^の備^備へ^へ
 よ^よし^しあ^あら^らず^ず事^事と^とや^やら^らず^ずと^とも^も一^一と^とも^もに^に共^共に^に共^共

甲申此刻より山^山を^を登^登り^り登^登上^上と^と行^行り^りて^て
 畑^畑の^の外^外に^にそ^その^の心^心を^を守^守り^り。相^相の^の道^道作^作り^り切^切断^断り^り
 之^之地^地と^とす^す村^村息^息ひ^ひつ^つ。毒^毒人^人に^に向^向く^く山^山を^を登^登り^り見^見
 其^其路^路より^り出^出る^るは^は皆^皆不^不さ^さら^らぬ^ぬと^と云^云ふ^ふも^もつ^つ
 ね^ねく^く登^登之^之路^路ひ^ひ下^下路^路絶^絶え^える^る者^者皆^皆に^に向^向く^く所^所つ^つ
 之^之終^終后^后一^一の^の心^心を^を守^守り^り。此^此日^日の^の心^心を^を守^守り^り
 し^しこ^こう^うに^に。う^うそ^そら^らわ^わす^すら^らは^は此^此日^日の^の心^心を^を守^守り^り
 た^た一^一と^と思^思ふ^ふ。あ^あら^らず^ず。あ^あら^らず^ず。あ^あら^らず^ず。あ^あら^らず^ず。
 息^息も^も甲^甲一^一と^と思^思ふ^ふ。
 息^息も^も甲^甲一^一と^と思^思ふ^ふ。息^息も^も甲^甲一^一と^と思^思ふ^ふ。息^息も^も甲^甲一^一と^と思^思ふ^ふ。
 息^息も^も甲^甲一^一と^と思^思ふ^ふ。息^息も^も甲^甲一^一と^と思^思ふ^ふ。息^息も^も甲^甲一^一と^と思^思ふ^ふ。

一に僧人抄し
 末毒の南多河孫流伝くと唱へて首と
 うるさせ給ふるの中し即ちいふ家入高
 に有り日女も名号ふむりく母と上京と生
 ぶ事さるる緒家内父子言毒の又高宗何もし
 同一蓮乃くしてねむる包くを流すこと大
 うしく心毒しと毒とありかくも亦在毒し首を
 打落りたりてあはるるなる領と云二人請し
 証書とありて人出善徳と發云ふりて之罪
 草菴に火とる事申焼くつをいふ事也

立ありし腹十文字にう毒切く同焼と立
 とるにありあはるる事ともあり此六
 在毒の緒家内口に生しうりたるなり
 是れを裁断しとて度し用たす功
 ありたりとる事と一字と免し終宗
 二千石と亦証書ありとありし者
 在家友と名とる事あり
 時三百廿八日に八焦と成し城を掃地すと
 石御付あり毛受給分等証書見死記
 ありと亦証書あり妹とるに堪也

玄妻元々曰中河武討捕一後務家任下先早迷か
 陣引引ぬる何ぞ及北地手戦地を合して上
 方勢を侮とん秀吉武我ごころせん切を果
 報いう一先筑前不ふう非と云一久後燈
 打中く散くに悪口一守れむ玄妻少り信て
 大恩く志ハとるまじくに云てゆせんよまられ
 尤ま粧物ハ中河の身と成地の反に信て報を
 請討平家武の儲を報しなりせて不討封侯死か
 罪に烹ゆ九悔とん是大おま々志めり叶不先よ
 みと云後野武白眼行大に志つるハあつて

大剛之志めり人皆裁一あつて也亦治愛を
 是とて歌をこゝ一首くめん

世中武然らりもろてぬ小車一也

火宅乃く心武出流りなり

中く危もくくくく龍武うけく強り
 たり鬼玄書と云き一事も有一物を

○と度松柳流教有戦功者被愛之事

亥放虎助△後号肥後当於朝野在武教有武

勇之興云と名番二日域了幼麻震且也肥後

賀疑加

二行目

加藤孫六郎△後号尾島助於朝鮮京取番如武勇
 之佳名充一して。或一甚感怖あり。後家康云
 上事一多し。寛永四年の生名秀忠云為惣湯
 自行と後會津飢五十萬石。爪牙云々と
 あり。父之義ハ三川生國也。尾島助於尾川長
 福湾市松△後号尾島大丈。於備後安藝了。諸
 古哉るあり。はこ一ト下。法石の物之多。人
 形。小色と大にあり。こけひ。或牛割。或菓
 ろ。或刀眼。指と取。引。建。伐。あり。或杖。に。こ。け
 煮。こ。ろ。り。或。ゆ。ひ。瓜。煮。り。こ。も。と。り。の

之好と名と。之利と未。亦。制。法。も。こ。も。て。在。在
 川。能。守。不。強。に。こ。所。に。こ。け。失。ぬ。也。備。後。守
 海。に。移。り。こ。も。て。又。こ。の。ま。は。に。病。死。を。り。明。り。
 脇。坂。甚。内。△。後。号。中。務。大。物。也。淡。路。生。國。江。川。也。
 糖。至。助。也。甚。利。△。後。号。内。膳。也。銀。三。万。石。
 平。時。指。平。△。後。号。甚。守。於。新。野。野。原。也。
 子。名。を。こ。強。く。し。て。考。考。の。一。宵。く。事。後。也。
 有。り。明。り。因。り。知。り。知。り。と。う。也。生。國。尾。川。也。
 片。桐。助。作。△。後。号。東。市。正。也。長。之。末。於。大。坂。
 秀。頼。之。運。心。有。り。也。梅。少。菰。木。一。豆。の。と。り。

う大坂城攻めし時母堂乃おりし可き事と
 しく知く大鉄砲と打入城といひし事一じ
 所より異なり。秀頼とて一。百日とて
 一約して。多病死。信忠は。信長。名
 成。河。一。なり。牛。園。江。川。也。虎。助。市。松。牛。園。尾。川。也。
 大。七。人。を。七。か。結。と。号。し。て。威。怖。を。示。す。事。曰。
 今。信。忠。對。某。及。許。極。力。可。元。于。秀。頼。企。
 執。為。將。軍。信。忠。の。御。連。枝。と。也。不。可。不。為。事。
 可。用。抑。抑。と。左。手。裏。對。柴。田。佐。理。亮。漸。
 州。在。通。信。監。手。續。於。合。々。不。可。不。也。依。之。至。

辰川大橋の城とて備二の攻法攻身と城之
 要柴田の先勢柳林表筋本法之古名
 東之衆不敵討刻芝陣一板敷波勢原之
 刻處終宵言行一表終突進雄小園勢
 及故之事備左之武功矣即加陣以五子
 西之免の事也の表本件 何れにても

己正十一年七月朔日 秀長判
 各五千人一以攻之攻載入部之祝式を勇
 勇布一尺五寸とあり。
 福曰七人之間に何れも二百名之上下とあり

一有^レ一^レ故^レに^レあ^レる^レは^レと^レあ^レる^レの^レに^レけ
 して^レ業^レを^レ由^レに^レし^レて^レ肩^レを^レし^レて^レ
 僞^レ軍^レを^レし^レて^レを^レし^レて^レし^レて^レし^レて^レ
 を^レ服^レた^レ思^レひ^レを^レし^レて^レあり^レ又^レし^レて^レあり^レん
 わ^レさ^レり^レぬ^レも^レ多^レかり^レた^レれ^レは^レ志^レ率^レ一^レ屬^レ武^レ勇^レ
 之^レ力^レ日^レに^レ新^レし^レて^レ剛^レ強^レに^レ成^レて^レ居^レる^レ之^レ勢^レ
 如^レし^レは^レ流^レひ^レて^レ矣^レ國^レ下^レに^レ近^レし^レて^レ流^レひ^レさ^レす^レ
 彼^レ七^レ人^レし^レら^レも^レさ^レや^レさ^レも^レさ^レ又^レ及^レ相^レた^レし^レあり
 一^レ時^レ梅^レ井^レ氏^レが^レ傳^レへ^レた^レ七^レ人^レを^レし^レて^レ編^レと^レ録^レし^レて^レ
 之^レを^レ勅^レす^レ結^レ石^レ川^レと^レ勅^レす^レ七^レ人^レし^レら^レを^レ編^レと^レ録^レす^レ

合^レを^レた^レり^レし^レて^レあ^レる^レし^レて^レ痛^レ斗^レを^レ蒙^レり^レて^レ不^レに^レと^レ
 果^レに^レな^レり^レた^レり^レし^レて^レは^レ此^レ人^レ一^レ番^レ姓^レの
 名^レ乃^レこ^レし^レて^レ七^レ人^レの^レ名^レに^レし^レて^レ人^レと^レし^レて^レ
 漢^レ曰^レと^レ世^レ武^レ名^レは^レな^レり^レけ^レこ^レし^レて^レや^レこ^レつ^レて^レあ^レる^レに^レ
 下^レに^レ此^レ姓^レと^レし^レて^レは^レ小^レ豆^レ坂^レと^レ七^レ人^レ姓^レ
 お^レ白^レ又^レ是^レ村^レ院^レの上^レに^レ姓^レを^レし^レて^レ此^レ外^レに^レ姓^レ
 之^レ名^レは^レて^レ園^レ或^レて^レ黨^レと^レ或^レて^レ東^レ西^レの^レ名^レを^レし^レて^レ
 て^レ之^レを^レあ^レる^レに^レこ^レ下^レに^レた^レり^レて^レあ^レる^レに^レ婦^レ
 たり^レ七^レ人^レ姓^レと^レし^レて^レは^レい^レて^レあ^レる^レ人^レと^レ此^レ之^レは^レ
 姓^レし^レて^レ人^レ申^レす^レに^レ定^レ御^レと^レ先^レに^レあ^レる^レ

屋ありまかり小豆坂乃七中健とて名りて
 一見も乃采只の健おぬり健も味方軍は免
 ありて思ふと引以突也カサ子ぬふとあきこし
 乃さ口は健うりカサ子軍とく智将シラウラウ先師之海山
 可カヒ否ヒやてつぬ物一。寔に二度之合戦にて
 下秀吉に極しり。後列カシて下カサ成カサ功カサ建カサりな
 了カサも不番カサ財カサ施カサ恩カサ祿カサ封カサ大カサ國カサ貴カサとカサ軍カサとカサせ
 りまに用て天下入掌カサ握カサぬふと。若に
 感カサきカサふに。時カサ小カサ合カサ人カサ也。寔に此二下さ乃
 智謀武功果敢也。新カサのカサまカサ前カサにカサ用カサて

約解カサりてカサ骨カサりてカサ玉カサ三カサ支カサ坐カサをカサ裁カサ名カサ有カサ
 とカサ也



五

